

道徳記述式で評価

文科省会議了承 内申書記載せず

小中学校で2018年度以降、正式教科になる道徳の成績評価の在り方を議論している

都道府県教委などに通知する。

報告書案は具体的な評価のポイントについて「他者の考え方や議論に触れ、自律的に思考する中で、一面的な見方から多面的な見方へと発展しているか」

「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか」などを挙げた。

これまで十分な成績評価がされてこなかったことが道徳教育を軽

視する一因になったと指摘し「道徳教育全体の充実を図るためには評価についても改善する必要がある」とした。

ただ、他教科のように「知識・理解」などの観点別評価はせず、一人一人の良い点をほめたり改善が望まれる点を

指摘したりする。授業での発言や感想文などを参考に評価するが、1回の授業で学級全員の様子を把握するのは難しいため、1年間計35コマ、1コマは小学校45分、中学校50分）を通して個々の成長を把握するよう求めた。

道徳は1958年から「教科外活動」として小中学校で週1コマ実施されてきた。2011年に起きた大津市のいじめ自殺事件など

をきっかけに道徳教育の大切さが注目され、13年2月、政府の教育再生実行会議が教科化を提言。14年10月の中央教育審議会答申、15年3月の学習指導要領一部改定を経て正式教科に格上げされた。

【佐々木洋】

内面 価値踏みの恐れ

道徳教育に詳しい子安潤・愛知教育大教授（教育方法学）の話

道徳教育の現場を見る

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。

と、ほとんどが特定の徳目（自由と責任、友情、家族愛など道徳教育の内容項目）の理解を目指して行われている。子供たちが自由に考えているように見えて実は枠組みが決まっており、評価もその範囲内でされてしまう。教育は個人の尊重を原則にすべきで、教師が記述すれば公的に生徒の内面を価値評価することになる可能性があるが、そうした評価はすべきでないだろう。